

お江戸舟遊び瓦版 993号



水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

鈴木エイト「山上徹也」とは何者だったのか 講談社+α 23.7.19

はじめに

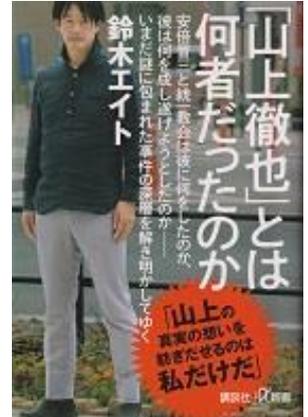
安倍晋三元首相銃撃事件に呼応するように、その後大きく変容していった日本社会の動きについて考えてみたい。「山上徹也」という人物をどうとらえるべきなのか、日本社会はまだ揺れている。

序章 風化する「統一教会問題」と「なかったことにしたい」勢力

- 統一教会の被害がいまだに継続しており、そんな問題教団と多くの政治家が不適切な関係を持ってきたこと、またこの重大な社会問題が長年にわたって見逃されてきたことに衝撃を受けた人がいかに多かったか。
- 統一教会は、1954年に文鮮明によって韓国で創設され、KCIAによって反共組織化され、朴正熙軍事政権の庇護を受け勢力を伸ばし、1958年日本に進出し、翌年日本統一教会が設立され、1968年に宗教法人の認証を受けた。68年には反共産主義を掲げる政治組織・国際勝共連合を日韓で相次ぎ設立し、自民党を中心に保守派の政治家に接近。秘書や選挙運動員の派遣などにより政治家の懐に入り込み政界工作を継続していった。
- 一方で教団は様々な社会問題を引き起こした。67年教団系大学組織・原理研究会問題、1980年代以降、高額な壺を売る等の靈感商法が社会問題となった。教組が選んだ相手と結婚させられる合同結婚式問題も報じられ、有名芸能人が参加した合同結婚式は、一躍“統一教会問題”として広く知ることになった。2012年に教組が死去後跡目争いで分裂し、妻の韓鶴子が実権を握り、毎年継続して数百億円が日本から送金されている。全国の300人の弁護士による全国灵感商法対策弁護士連絡会によると相談件数は34537件、累計被害1237億円を超えている。しかも被害額はその数十倍とみられている。日本から奪い取った莫大なお金が“統一グループ”を支えている。

第1章 山上徹也と安倍晋三、鈴木エイトをつなぐ「奇妙な縁」

- 山上徹也は、1980年3人兄妹の次男として大阪に生まれる。1984年トンネル工場の現場監督の父親がうつ病を患い飛び降り自殺し、奈良の母の実家に転居。1991年母親が統一教会へ入信、夫の生命保険6000万円を「霊を慰めるため」と教団へ献金。山上は進学校の高校へ進学、応援団に入部。母は祖父名義の土地を売り4000万円を献金し、家庭は借家暮らしになり、大学進学を断念。
- 鈴木エイトは、1968年滋賀県で生まれる。22歳で日本大学を卒業後、アルバイトや契約社員に。カルト教団との関りは、2002年統一教会による偽装勧誘の現場に遭遇し始まった。この年山上の母親は教団への過度な献金で自己破産する。山上はいとこの紹介で自衛隊佐世保教育隊に入隊。鈴木は統一教会による組織的な偽装勧誘の阻止活動を始める。
- 2005年山上は、妹と兄に保険金を残すために自殺未遂を。2005年、2006年安倍晋三は宇宙平和連合へ内閣官房長官名で祝電。山上は2006年測量会社でアルバイト、2008年ファイナンシャルプランナー2級の資格を取得。母親が引き継いだ建設会社が解散、教団は5000万円返金する。
- 2010年安倍晋三は、統一教会関連の世界戦略総合研究所で講演。2011年鈴木は、足立区議と統一教会の関係をスクープ。ジャーナリストとしての活動を本格化する。2012年安倍は総理に。2013年参院選で岸元総理の恩人北村サヨ（天照皇大神宮教祖）の孫・北村経夫への組織票支援を統一教会に安倍が直接依頼。2014年鈴木は萩生田光一の統一教会大規模集会出现を週刊朝日に記述。2015年桜を見る会に『世界戦略総合研究所』事務局長を招待。統一教会から世界平和統一家庭連合への名称変更を下村博文文部大臣の圧力のもと認可。
- 2019年愛知県開催の教団4万人大会で山上は、火炎瓶で韓鶴子総裁襲撃計画は警備が厳しく断念。



山上はツイッターで「オレが憎むのは統一教会だけだ。」と最初の投稿を行った。2020年安倍総理辞意表明。2021年山上は手製の銃製造のためハイツを借りる。UPF（宇宙平和連合）大会で安倍のメッセージ。2022年山上、職場でのトラブル多発、口論も。4月に銃が完成し、退職。6月29日鈴木にツイッターでダイレクトメッセージを送る。鈴木から見ると2021年9月12日「神統一韓国のためのThink Tank 希望前進大会」の安倍のメッセージが“事件”の分水嶺になったと。

第2章 銃撃事件後、逮捕された山上が供述した「恨み」

- ・ 衆人環視の下、政治家が銃撃され亡くなるという事件に日本中が騒然となった。最初は選挙妨害の政治テロと見られていたが、背景に深刻な家庭崩壊をもたらした統一教会による被害、問題教団の体制保護に寄与してきた政治家との癒着構造、安倍晋三との不適切な関係が明らかになった。
- ・ 鈴木は、この不適切な穢れた関係をどうすれば世に問えるのか、なぜ問題視できないのか…。安倍晋三と統一教会の関係を継続して追求してきたのは鈴木だけだった。当初は警察も「統一教会と安倍晋三の関係」を信じなかった。山上は両者の関係を正確に理解し、安倍をターゲットとした。現地取材すると私の観て「鈴木エイト死ね！」という声が飛んだ。

第3章 鑑定留置中の山上に送った手紙 第4章 事件の約1週間前に山上から届いたメッセージ

- ・ 「ジャーナリストの鈴木です。事件から4カ月が経ち、解散命令に対して質問権が行使されようとしています。改めて、なぜ、事件前にこのような動きがなかったのかを考えざるを得ません。7月の事件後、メディアは連日統一教会問題を報じ、政治家の追及も続いています。事件前に山上さんに出した手紙に応じて頂けるとありがたいです。」 鈴木エイト
- ・ 弁護士から「徹也さんがエイトさんへ事件前にメッセージを送ったが返事は来なかった」と。ツイッターの山上のアカウントが凍結されているため消去され、今では確認できない。
- ・ 長すぎる鑑定留置は世論を冷ますためとも言われた。教団との返金交渉は続いているという。安倍晋三こそが悪質な教団を生き永らえさせた張本人だ。

第5章 山上徹也に複雑な思いを抱く「宗教2世」たち

信仰のない「統一協会2世」は、自身と親、親と教団、自身と教団という3つの関係性の中で様々な葛藤を経験している。教団に対してはマイナスの感情を持っている。

第6章 事件の1週間前に山上から届いていたメッセージ

弁護士によると、山上徹也は私・鈴木エイトの活動や記事をすべてチェックしていた。安倍が統一教会と只ならぬ関係にあることを判断した根拠に私の記事などが上げられた。

第7章 山上徹也が抱えていた「マグマのような憤り」の正体

異例の長さの鑑定留置を終え、2023年1月に起訴された。彼の事件によって教団の悪質さや政治家との関係が広く知られるようになった。事件前日のルポライター米元和広への手紙には、「私と統一教会の因縁は30年、母の入信・献金・家庭崩壊・破産…世界中の金と女はすべて自分のものと疑わず、その現実化に手段も結果も問わない自称現人神。…安倍は本来の敵ではないのです。…安倍の死がもたらす政治的意味、結果、もはやそれを考える余裕は自分にはありません」

第8章 山上徹也は事件前からSOSを発していた

山上徹也は孤独な生活において、外部の人や様々な機関に接触を試みていた。米元和広のブログにコメントややり取りの中に「一人の狂人の誇大妄想、病的な自己愛は…万死に値する罪ですよ」

第9章 山上徹也が見た「絶望」の正体

多くの人が疑問に思ったのが「安倍晋三という首相を務めたほどの人がまさか統一教会と関係を持っていたなんて」という点だ。教団の幹部を殺害してもトップの首をすげ替えるだけだ。自分と同じような被害者を出さないために、それを放置・利用した安倍首相を狙ったのではないか。

第10章 「統一教会の被害を食い止めた」ために罪が重くなる可能性

安倍晋三という政治家をターゲットにしたことが、情状酌量になるのか、加重要件となるのか、統一教会と安倍晋三の関係について公正な情報が提示され裁判が審議されることを望むだけだ。

所感：事件から1年しか経たないのに人々は忘れかけ、統一教会の解散もまだまだ先が読めない。

あまりにも多くの政治家が関わっているためか真相もウヤムヤ化しそうだ。（文責 中瀬）